

平成17年度 高冷地水稲生育速報(第1報)

中山間農業技術研究所

1. 生育概況(6月7日)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	19.0 (86%)	118 (104%)	4.2 (-0.6)	31.3 (-4.7)	5.1
	前年	22.0	114	4.8	36.0	-
	平年	-	-	-	-	-
コシヒカリ	本年	21.0 (88%)	102 (62%)	4.1 (-0.5)	31.2 (-4.4)	5.0
	前年	23.8	164	4.6	35.6	-
	平年	-	-	-	-	-
たかやまもち	本年	19.3 (78%)	91 (66%)	4.0 (-0.6)	27.6 (-6.7)	4.7
	前年	24.7	137	4.6	34.3	-
	平年	-	-	-	-	-
ひだほまれ	本年	21.7	95	4.0	32.2	5.1
	前年	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-

栽培条件: 移植5月17日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a

平年値: 過去5年間の平均値

()内の数値は対前年値

2. 生育状況と当面の管理

1) 生育状況

田植直後の低温により活着及び初期生育が悪く、生育量が少ない。

先週より気温が高くなり生育の遅れは回復傾向にあるが、草丈は短く、「ひとめぼれ」以外の品種では分けつも少ない。また、葉色も全体に薄く、葉齡は進んでいない。

2) 病虫害等の発生状況

イネミズゾウムシは5月中旬まで全く見られなかったが、5月末から飛び込んできている。発生が遅かったため一時的に被害が拡大している。イネドロオイムシは見られないが、ニカメイガの死骸が散見される。

葉いもちの発生は無いが、カリ欠乏と思われる赤がれ症が多く見られる。雑草はノビエ、ホタルイで2葉期と例年より発生が遅れているものの、だらだらと発生し続ける恐れがあるので注意する。

3) 今後の管理

活着しているところは、梅雨に入る前に早期中干しを実施すると良い。いったん落水し2~3日干して、田面をある程度硬くし、土壌中のガス抜きを行う。田面にわずかにヒビが入ったら入水すると良い。その後の水管理は間断灌水とする。

生育がみずばらしいので追肥をしたくなるが、「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」では追肥は行わない。

中山間農業技術研究所
TEL 0577-73-2029
FAX 0577-73-2751